

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人 別府発達医療センター 児童発達支援センターひばり園		
○保護者評価実施期間	令和8年1月18日		～ 令和8年2月6日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15人	(回答者数) 15人
○従業者評価実施期間	令和8年1月25日		～ 令和8年1月29日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2人	(回答者数) 2人
○訪問先施設評価実施期間	令和8年1月18日		～ 令和8年2月6日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	9施設	(回答数) 9施設
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年1月18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・当園と併行利用を行っている施設への訪問をおこなっているため、子どもの日頃の様子および状態や強み、行動や言動の理由等について、適切に伝えることが出来るため強みであると考えます。	・現場の先生方の話や実際のお子さんの様子を観察し、お子さんの強みを活かした支援方法や、園生活に取り入れやすい具体的な支援方法が提供出来るように努めています。	・訪問員以外の職員とも園での様子や課題を共有し、当園の支援や目標設定に取り入れており、訪問員を通して両園で連携し、同じ方向性で支援が繋がっていくように取り組んでいます。 ・訪問員は、多様なニーズに応じられる高い専門性が必要となるため、将来を見通した人材育成に取り組んでいます。
2	・保護者の了解を得て、リハビリでの状況や現在の目標等についても情報共有がおこなえるため、メリットであると考えます。	・リハビリでの状況や計画書の内容について専門用語を使用せずにわかりやすい言葉でお伝えできるように工夫しています。	・発達支援の専門職として、応用行動分析や感覚面、言語面の知識等についても、さらにスキルアップしていけるように、今後も研修会に参加する等して資質の向上に取り組んでいきます。
3	・児童発達支援事業の計画書と保育所等訪問の計画書の目標設定や支援内容が関連づけたものが作成出来て、お子さんの状態に合わせて一貫した支援が行えることも強みであると考えます。	・事業所と園の様子が異なることもあるため、その理由は何なのか、先生方と情報共有をおこないながら慎重におこなっています。	・幼児期で、自分の思いや感情を伝えられないお子さんがほとんどのため、思いに寄り添って適切な言葉で代弁してあげるように、自己研鑽に努めています。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・希望する利用者は年々多くなっていますが、訪問員2名は兼務での配置となっているため、高頻度で実施することは難しい状況です。また、当園の利用者以外にも希望者がいらっしゃいますが実施出来ないのが現状です。	・専任の訪問員を配置する事は人員や経費的にも困難な状況です。	・現状では訪問員の兼務は必須ですが、3人の訪問員配置が可能であるか検討していきたいと考えています。限られた状況の中で、お子さんの課題やニーズによって頻度の検討をする等して取り組んでいきます。
2			
3			